

2010年7月2日

いよいよ待ちに待った、SYMSのEXマニホールドがリリース間近になった。昨日SYMSの米田さんからのメールで、先日工場から製品があがったそうで、ここ2、3日中にはGDB(オイルクーラー装着車)への装着が確認出来るそうで、遅くとも4日には連絡できるだろうというお返事があった。ここまでずいぶん長い道のりであったが、やっと我が愛車へのEXマニ装着が、たぶん来週中には実現できそうだ。

その際にCARBING OKUYAMA製アンダーパネルを装着することにした。

当初純正アンダーカバーに耐熱シートを貼り込んで使用しようと考えていたのだが、やはりEXマニの熱対策を考えた場合には、やや心許なく火災等のリスクもあるため、このさいアルミ製のアンダーパネルに取り替えることにした。

以下はOKUYAMAのHPより引用した文章である…。

CARBING

GDB専用アンダーパネル



OKUYAMA



「アンダーパネルはエンジンルーム下部へ流れ込む空気の整流効果をアップさせるパーツです。車両下部をフラット化することで、中・高速走行時に発生するエアだまり(空気抵抗)を無くします。

空気を整流化させることでフロントが路面に吸い付き、適切なダウンフォースを得ることが出来ます。

また、エアを整流化することで空気の流速を高め、エンジンルーム内の熱気を効率よく排出。

オーバーヒート防止や、水温・油温の安定性が向上します。

CARBINGアンダーパネルの材質は、軽量で耐久性に優れたA5052のアルミ材(厚さ:2mm)を採用。

最低地上高を確保した高品質な造りにしています。

パネルにルーバー処理を施すことで、積極的にエンジンルーム内の熱気の排出を促し、より空気抵抗の低減を実現。

オイル交換がしやすいように、ドレーンボルト並びにオイルフィルターの下にサービスホールを設けてあります。

また、ジャッキアップする際に直接フロアジャッキがかけられる様、ジャッキアップポイントを追加しました…。」

このように純正アンダーカバーに比べて、ほとんど重量増はないと考えられ、車種別に機能的な工夫もなされていて、まさにうってつけのパーツであると思っている。

もとより懸案であったEXマニ装着に伴う熱の問題は、これで完全に解消出来るはずである。

後はSYMSのHP上でEXマニホールドのリリースがアップされるのを待って、三重スバルより発注するだけだが、CARBINGのアンダーパネルが、三重スバルと取引のある部品業者で、取り寄せが可能かどうかは現時点で未確認である。

もしも取り寄せが出来ないとなると、個人購入しなければならないので、多少時間が掛かるだろう。

尚、アンダーパネル装着については、専用品なので問題は無いはずだが、サブフレーム装着車についての記述が無いので、少々気に掛かるところであるが、これは正直なところ実際に装着してみなければ分からないだろう。購入時にOKUYAMAには確認してみるつもりだ。

いずれにしても、SYMS EXマニホールドの装着までもう少しのガマンであらう。

どんなパフォーマンスを発揮してくれるか、今からとても楽しみである。



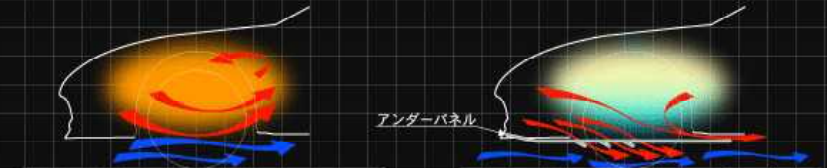
SUBARU Impreza WRX STI spec C type RA-R

LAILE Beatrush
Aluminum Under-Panel



適合車種	インプレッサ [GDA, GDB] ターボ車専用
仕様	2.0mm厚アルミ製
取付方法	加工無しのボルトオン装着 取付所要時間目安:約30分 1)純正の樹脂製アンダーパネルを取り外します。 2)車体のネジや穴を利用して付属のステーを介して取付しますので、加工の必要はありません。
重量	※2006年8月以降の車種は車体の穴をドリルやリーマー等で広げる加工が必要になります。 5.00kg (本体 4.30kg、ステー 0.70kg)
備考	車両のリフトアップが必要です。 純正品以外のバンパー、エキマニ等のパーツを使用されている場合は加工が必要となる事があります。

アンダーパネルは高速走行時にボディ下面の整流効果を向上させダウンフォースを発生させます。またエンジンルームに巻き込む空気の流れを抑えるとともにベンチレーターを設ける事によりエンジンルームの熱を排出し負荷低減効果が得られます。



走行時、車体下面の空気の流れによってエンジン下部に蓋をされたような状態になりエンジンルームの熱がこもってしまいます

アンダーパネルを装着するとアンダーパネルに添って空気が流れ、エンジンルームの暖まった空気を引っ張るようにして排出します

2010年7月6日 昨日三重スバルの山本さんにOKUYAMAのアンダーパネルの件を尋ねたところ、取り寄せは可能だがGDB-F/Gに対するマッチングが確認されていないということであった。そこで、再考するという事で一旦電話を切ったのだが、本日LAILEのHPを閲覧したら、LAILE製Beatrushアンダーパネルに適当なのが出ていたので、早速自分で注文してしまった。何故即決かというと、こちらの方が断然お値打ちだったからだ(約半値)。また製品のデキは見てのとおり決して悪くはないし、マッチングも下の写真を見る限り、一応GDB-F/Gに装着されているので、大きな問題はないだろうと判断した。この週末、11日の日曜日に到着する予定である。

DOWNFORCE

LAILE

車体下部を流れる空気はフロントバンパーカバーやメンバー等の影響により空気が巻き込まれ乱流が発生しています。アンダーパネルを装着する事で空気の流れを整え、乱流をなくす事で空気の流れが速くなります。空気の流れが速くなると車体と路面との間の気圧が低くなるため車体上部の高い気圧に車体が押さえつけられる力(ダウンフォース)が働きます。



LAILE

Beatrush
made in JAPAN

2010年7月11日 本日注文してあった、LAILE製Beatrushアンダーパネルが到着した。こうして部屋に持ち込むと、かなり大きいと感じた。早速梱包を解いて、中身を確認した。表側(下側)はキズ防止のために、透明ブルーのビニールシートで覆われていた。手に持つと樹脂製のアンダーパネルよりかなり重い



箱の中には、後、取り付けステーのセットに取扱説明書、LAILEのブランドのひとつ、Beatrushのカatalogが入っていた。さてこれでSYMS EXマニホールドを装着しても、熱による心配は、完全に無くなった。



SUBARU Impreza WRX STI spec C type RA-R

LAILE Beatrush
Aluminum Under-Panel



2010年7月13日 SYMS EX

アルミアンダーパネル

マニホールド&サポートパイプを装着した後、先日三重スバルを訪れた際に預けていた、LAILE製Beatrushアルミアンダーパネルの装着作業に取り掛かった。まず、私のRA-Rは2006年8月以

降の車両なので、フロントサブフレームの前部取り付けネジ穴は左側1カ所だけだった。右側には穴が開いているだけで、ネジは埋め込まれていないので、付属のターンナットを埋め込むために、穴をドリルで少し拡張しなければならなかった。そのままでは錆の心配があるので、持っていたタッチアップペイントで錆止めを行った。塗料が乾く間、付属の取り付けステー センターを、フロントサポートバー(ジャッキUPポイント)前部の既設ボルト2本を使用し、共締めにして固定した。そして、取り付けステー リアを同じくフロントサポートバーの後部の既設ボルトで共締めにし固定した。しかし、STIフロントロアアームバーが少し下に出っ張っているところを、無理矢理ボルトを締め込んだら、ステーのアンダーパネル固定面の角度が変わってしまった。仕方がないので、ロアアームバー位置から後方を少し折り曲げる加工を施し、アンダーパネル固定ネジ穴のズレが心配されたが、結果的にはOKだった。最終的にしっかり装着出来た。

LAILE

穴を拡大した

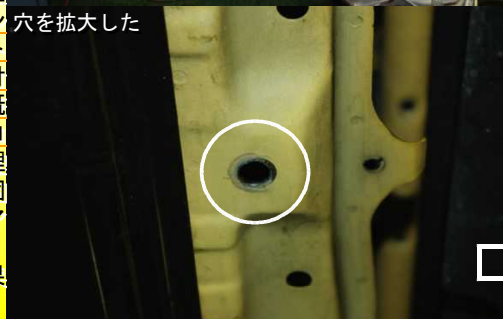
付属のネジ類とフロント取り付けステー

センター/リア取り付けステー



タッチアップペイントで錆止め

サポートバーの既設ボルトを使用



取り付けステー センター

取り付けステー リアを曲げ加工

取り付けステー リア



取り付けステー フロント右を取り付ける為に、付属 付属のキャップスクリューネジでパネルを固定のターンナットを先ほどの穴に埋め込む

取り付けステー フロントを固定し終了

